

反畑誠一（たんばた・せいいち）先生

音楽評論家 立命館大学客員教授

音楽評論家。

立命館大学産業社会学部客員教授（本講座の他、「企画研究」・

専門特殊講義 SK「ポピュラー音楽論概論」を担当）

一般社団法人 日本音楽著作権協会（JASRAC）理事。

日本レコード大賞 常任実行委員・アルバム大賞審査委員。

駐日韓国大使館諮問委員会委員。

新聞音楽コラム「ヒットの周辺」（京都新聞など 23 紙毎週掲載）、

コンサート評・ポピュラー音楽部門（「日本経済新聞」）、

「昭和のうた」（月刊「The Record」）など各紙に多数執筆のほか、

コメンテーターとしてメディアを主に活躍中。

東アジア各国の音楽文化・産業の研究・分析も継続している。



《講義概要》

開講オリエンテーションは、立命館大学産業社会学部の竹内謙彰副学部長の挨拶から始まった。まず、本講座が寄附によって成り立っていること、寄附を賜った3団体について紹介。コンテンツ産業界の最前線で活躍中の素晴らしいゲスト講師のご講義を聴くことのできる貴重な機会であると説明し、好奇心と探究心を持って意欲的に学ぶよう受講生を激励した。

続いて、本講座の担当教員である産業社会学部栗谷佳司准教授より講座の主題や学習目標、学習のキーワード、受講にあたっての注意事項について言及。本講座は産学共同によって、デジタル時代を担うコンテンツ文化・産業界が直面している現状分析と課題の研究、人材育成を目指す画期的な授業であると説明した。

その後、本講座のコーディネーターであり音楽評論家でもある立命館大学客員教授の反畑誠一氏が、コンテンツ・ビジネスの海外戦略をテーマに最新の情報を交えて講義を展開した。海外展開における新しいビジネス戦略の実例、海外進出しているアーティストの現状について動画を流しながら詳しく解説し、今後の方向性と展望を示した。さらに、本講座の学習の基礎としてコンテンツ産業の概念や著作権について説明し、今後のコンテンツ産業のあり方を考察する上で理解を深めておく必要があることを示した。

最後には、次回からの講義テーマや豪華な講師陣を紹介し、各講義のポイントを伝え、予習を行い積極的に学習を深めるよう促した。

《受講生の感想》

●コンテンツ産業に関わっていく上で、著作権の問題は必ず考えなければいけない事柄だと感じた。自分のこれからの活動においても重要なことになってくると思うので、著作権についての知識を身に付けたい。また、この授業を通して近年のコンテンツ産業におけるビジネスの傾向・工夫を知りたい。それを知った上で、今後、コンテンツ産業に関わっていきたいと思う。

立命館大学・映像学部・2年生

●映像学部生にとって身近なトピックであるデジタル・コンテンツ文化・産業論を様々な切り口で学ぶことができるこの授業がとても楽しみです。反畑先生がおっしゃったように“リスペクト”“自己管理”“コンセントレーション”を持ってこの授業を活用していきます。コンテンツ産業が急速に発展している時代を担っていくことになる自分たちがすべきこと、出来ることを模索していきたいです。

立命館大学・映像学部・2年生

●私は国際関係について日々学んでいるので、著作権の戦時加算について非常に興味がわきました。国際関係とコンテンツ産業を合わせて考えるのは、普段の学びの中ではなかなかない機会なので、自分の専攻を常に頭の中に置きながら、これから学習していきたいと思います。その中で自分が今まで気付かなかったもの、見えていなかったことを発見していきたいと思います。

立命館大学・国際関係学部・3年生

●コンテンツ産業界の最前線で活躍されているプロフェッショナルの方々のお話を聞く機会はなかなかないと思うので、毎回の授業を大切にしたいと思います。著作権についての知識が不可欠となるので、自分なりにも勉強してみたいです。

立命館大学・法学部・4年生

●とても受講したかった講義のため、受けられて本当に良かったです。日本、世界で注目されているコンテンツ産業の最前線で活躍されるゲスト講師の貴重なお話はもちろんのこと、この機会を生かし様々なコンテンツ産業、文化に触れて学びたいです。

立命館大学・映像学部・3年生

●この講義を通して、今の日本の音楽業界の抱える課題、そして発展について深く学び、学部でのコンテンツビジネスの研究に生かしていきたい。日本の音楽業界はまだまだ世界に向けたビジネスに遅れをとっていると思う。この遅れを取り戻すには私たち大学生が今の音楽業界をビジネス的側面で学ぶことが不可欠であると思う。しっかりと自分の知識として吸収できるようにしたい。

立命館大学・映像学部・3年生

●コンテンツ産業がどのように発展していったのか、どのように現在に至っているのかという歴史的な部分に触れていただき、この授業の導入として非常に有意義な時間でした。インターネットが広まると共にどんどん形態を変えていくコンテンツ産業の動きを数々の著名な講師の方からのお話を通して学んでいけたらと思っています。

立命館大学・映像学部・2年生

●日本のエンタテインメント産業界において、CDなどの音楽ソフト市場が低迷しているということが分かった。この問題に対して、私たちのような若い世代の人々が問題意識を持ち、何かしらの働きかけをしなければいけないと思いました。一方向からその事柄を見るのではなく、多角的な視野で現状と未来を見ていかなければいけないと思いました。

立命館大学・産業社会学部・3年生

●今年で5回目の受講となりますが、非常にタイムリーで推移が激しい分野ですので、とても柔軟にリアルタイムな出来事、問題を講義で取り扱っていただけるという点がこの講義の大きな魅力の1つであると思います。コンテンツ産業の現状と問題点をしっかり学びたいです。

立命館大学・産業社会学部・4年生

●私は映像学部なのでデジタルやアニメーション産業、音楽産業についてとても興味があります。コンテンツ産業は国によって考え方が異なることも分かりました。コンテンツ産業の最前線で活躍されているの方々のお話しが聞けるということで、今から大変楽しみです。

立命館大学・映像学部・2年生